

# T TABLE FOR TWO

## テーブルの向こう側から

これまで給食  
80,562,914食分の  
ご寄付が集まりました！



写真：2020年8月 学校再開後

### タンザニア ザンジバル諸島 地域に広がる学校教育

支援国のひとつであるタンザニアのザンジバル諸島では、ザンジバル政府とも連携しその規模を拡大してきました。生徒の栄養状態や貧困レベルなどの基準で選ばれた学校の生徒9千人を対象に2014年に始まったプログラムは、2020年12月時点で27校1万4千人に広がりました。

中途退学率はプログラム開始前の平均34%から1%以下に減り、平均出席率も90%以上(以前は85%未満)を超え、生徒が授業に集中できるようになりました。中には国家試験でよい成績を収めて特別クラスに参加する生徒の数が3倍にも増えた学校もあります。



あの子の  
テーブル



世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大以降、ザンジバルでは東アフリカの中でいち早く学校が再開しました。再開後も手洗いの推奨や生徒の距離を空けるなど感染症対策を行っています。欧米では観光地として有名なザンジバルは、観光客が激減したことで経済的な打撃を受けた家族が多く、生徒やその家族は学校が再開され給食が食べられるようになることを待ち望んでいました。



学校給食が始まった多くの地域では、コミュニティの人々が学校のキッチンを建設しました。学校周辺の農家が農産物を提供し、地元の人が給食の調理を担当するなど地域ぐるみでプログラムに参加しています。

タンザニア  
ザンジバル諸島



日本  
東京  
全国

# 世界を繋ぐ ひとつの テーブル

わたしの一食が、  
あの子の一食になる。



TABLE FOR TWO は開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動です。

©TABLE FOR TWO International

わたしの  
テーブル



株式会社電通では、TFT寄付つきオンラインレストランを開店しました。自宅でTFT寄付つきの特別メニューを食べながら、社員と食について考えました。TFTのコンセプトにぴったりの「ヘルシーで楽しい」メニューとして選んだのは、山形県新庄市の新米つや姫を使用した「かて飯」。東京・世田谷にある真之坊のシェフ特製です。



豊田通商株式会社では、ウォーキングを通じた社会貢献活動として参加者1人の1日の歩数が7,000歩超えるごとに1食を会社が寄付するイベントを年末年始に開催しました。社員233人が参加し約2,050食の給食を届け社員の健康増進及び社会貢献マインド向上につながりました。



## 広がる学校給食プログラム

ザンジバルはアフリカ東海岸のインド洋上にある、タンザニアに属する諸島で、ザンジバル政府が島を統治しています。TFTは、2014年より学校給食プログラムを開始し、現在ではザンジバル政府と連携をして支援規模を拡大しています。2020年12月時点で14,184名まで増えました。ザンジバル政府は、全校に学校給食プログラムを広める予定で国家学校給食戦略を策定中です。この戦略に基づいて持続可能な学校給食プログラムの実現を目指しています。

TABLE FOR TWO

## 地域経済への貢献

ザンジバルの学校給食プログラムは地域の経済活動にも貢献しています。地域の農家グループが栽培する農作物を学校が買い上げることで、市場を提供しています。また、雑穀や豆類を製粉する製粉業者も活動に参加しており、農産物のバリューチェーンをカバーしています。農家にとって農作物の決まった買い手があることは、安定した収入を得ることにつながります。2020年12月の時点で32の農家グループ、320人がプログラムに参加しています。グループで活動することは肥料などを卸売価格で購入できるメリットや、農作物の供給量を増やすことも可能にします。さらに、給食の枠を越え商業的に成功した例もあります。JUWAはオレンジサツマイモの契約農家グループですが、会員農家数を増やし生産量をあげ、サツマイモとソルガムの製粉を商品化し販売しています。





Zuvena Juma Ame 先生と Ali 校長先生は学校給食の恩恵を話してくれました。「プログラムが始まる前は先生が生徒の自宅を訪れて登校するように説得しないといけませんでした。今では、その必要がなくなり、ほとんどの生徒が自ら学校に来るようになりました。」「生徒が授業中、教室に長く座っているようになり、保護者やコミュニティにとっても子供の教育に対応しやすくなりました。」

## 栄養たっぷり、ザンジンバルのお粥



TFTが支援するアフリカの学校では、穀物、豆、芋やトウモロコシを挽いた粉で作ったお粥を生徒に提供しています。このお粥には炭水化物や糖類の他に、タンパク質や食物繊維などの栄養素も多く含まれています。しかも調理が簡単で、コップで飲める手軽さも重要なポイントです。

ザンジンバルの学校給食で提供されるお粥は、ソルガムと豆にオレンジサツマイモを製粉したものです。サツマイモの糖質によって、飲みやすくなるのに加え、体内でビタミンAに変化するベータカロチンを多く含むため、より栄養価が高くなるメリットがあります。

## 新型コロナウイルス感染症 ワクチン接種開始

COVAXファシリティ(開発途上国に対して人口の最大20%が摂取できるワクチンを提供)を通してワクチンを受けとったアフリカの国々で接種が始まっています。TFTが支援するルワンダやケニアでも3月に入って医療関係者などを対象にワクチンの接種が始まりました。特にルワンダではワクチン接種が進んでおり、すでに32万人が第1回目のワクチンの接種を終えています。一方、タンザニアはワクチン接種を奨励していない数少ない国ですが、コロナウイルスに懐疑的であった大統領の急死に伴い、政権が変わったことから、同感染症に対するアプローチも変わるのではないかと見られています。

## ルワンダでは全学年の授業が再開、 ケニアでは再びコロナ感染対策が強化

コロナ感染症の影響でルワンダでは2020年3月から学校が休校になり、10月に小学校高学年以上の学年から段階的に授業が再開されました。2021年の2月になってようやく低学年と幼稚園の授業が11か月ぶりに再開されました。他の学年は7月に学期を終了しますが、低学年と幼稚園は学期の終了が9月に延期され、休校中の遅れを取り戻すことになっています。

一方、3月に入ってコロナウイルス感染の患者数が急増しているケニアでは、3月26日に再び

感染症拡大の防止対策が強化されました。感染者数の多い首都ナイロビとその近郊地域への出入りが禁止となり、夜8時から早朝4時までの夜間外出禁止、学校やスポーツ施設が閉鎖になりました。ケニアの学校は3月末から5月まで長期休暇に入っていますが、感染者数が減少しないと閉鎖期間が続き、5月の長期休暇後も引き続き学校が休校になることが心配されています。

